

平成30年度 全国学力・学習状況調査及び佐賀県学習状況調査結果の分析について

平成30年4月17日に中学1・2年生を対象に「佐賀県学習状況調査」、中学3年生を対象に「全国学力・学習状況調査」を実施しました。

関係教科及び学習・生活に関する調査結果を分析し、改善に向けた取り組み事項をお知らせします。今後、さらに生徒の学力向上を図っていききたいと考えています。

1 1年生の傾向と指導事項

	分析結果・課題把握	改善に向けた具体的取り組み事項
国語	全体の正答率は、県平均とほぼ同じ数値だが、特に「書く」の正答率は県平均を上回っている。すべての観点で平均的に「おおむね達成」の範囲内である。	実践方法として、①漢字の課題を家庭学習として定着させる。②授業では、「めあて」の設定と「振り返り」を行うことで、学習の目標や成果を具体的に把握し意欲的な取り組みができるようにする。③「学び合う活動」において、目的に合わせた対話的な学びによる総合的な国語の力を育みたい。
数学	教科全体の到達度分布を見ると、十分達成が県平均に比べ少なく、おおむね達成と要努力の生徒が多くなっている。領域別では、数量関係はほぼ県平均と同じであるが、他の3領域はいずれも下回っており、特に「量と測定」領域の落ち込みが大きい。また、「数学の勉強は好きだ」「数学の授業の内容はよくわかる」という回答は、ともに県平均と同じであるが、「学校の授業の予習・復習をしている」と回答している生徒は、県平均より下回る結果となっている。	数式の領域では、計算速度の差が大きいので、個に応じた繰り返し練習ができるよう工夫する。関数や図形では、互いに話し合い、学びあう中で規則性を見つけたり、関係性を理解させたりしていききたい。いずれにしろ、ノートをきちんと取ることが大切であり、授業のたびに復習をする習慣をつけることを通して、学習習慣の定着を図りたい。

2 2年生の傾向と指導事項

	分析結果・課題把握	改善に向けた具体的取り組み事項
国語	全体の正答率は県平均をやや下回った。観点別では「話す・聞く」については県平均とほぼ変わらないが、「書く」「読む」「知識・理解・技能」については県平均を下回った。特に「読む」については「要努力」レベルにとどまっている。	「書く」については、身近な題材を基に「めあて」を決め、「学び合い」を取り入れて文章を書く活動を行ってきた。今後も構成や表現を意識して書く練習を重ねていく。漢字の課題の家庭学習にも継続して取り組み、小テストで確認を行うことで知識の定着を図る。また、「めあて」を意識して様々な文章を学習することで、読みを深めるより確かな内容の理解につなげたい。
数学	全体として県平均を下回った。内容・領域別の正答率を見ても、全ての領域で県平均を下回り、特に「図形」の分野の正答率が低かった。観点別の正答率を見ると、「見方や考え方」において、到達基準の「おおむね達成」にも到達していなかった。	授業ではチーム・ティーチングでの指導を行うほか、学び合う活動を通して、生徒が教師や友達に質問しやすい環境を作る。また、授業の始めに前回の学習内容を確認したり、単元の終わりにワークやプリントを用いて週末課題として復習を行ったりすることで学習習慣や基礎学力の定着を図りたい。

3 3年生の傾向と指導事項

	分析結果・課題把握	改善に向けた具体的取り組み事項
国語	全体の正答率は県平均をやや下回っているが、観点別では「話す・聞く」「書く」「読む」の観点は「おおむね達成」の範囲で、「知識・理解・技能」の観点については「十分達成」の範囲に収まっている。2年時では「要努力」となっていた「書く」の観点も昨年に比べやや向上できていると思われる。全体として比べてみると、やはりまだ「書く」「読む」の観点の正答率がやや低い状況である。	2年時の調査からの変化を見ると、「書く」「読む」の観点の正答率が「おおむね達成」の範囲内ではあるものの、県の正答率よりやや下回っており、長い文章をじっくり時間をかけて読んだり、自分の考えたことを文章にして書き表したりする練習を行いたい。説明文などの論理的構成の文章を読むときに、段落ごとに要点を読み取らせたい。それを文章に書き、段落ごとの関連や文章構成を考えながら文章全体の内容をつかむ学習を授業に取り入れていく。そして、論理的構成の文章を読んだり書いたりする練習を積み重ねていきたい。
数学	全体の正答率は、県平均を下回る結果となった。内容・領域別、観点別に見ても、全てで下回った。特に「関数」「資料の活用」「見方や考え方」においては、到達基準の「おおむね達成」にも到達しない状況であった。また、無解答率が県平均より高いということが分かった。	数学の基礎力となる「知識・理解」「技能」の向上のために、授業においてはチーム・ティーチングでの指導を行うほか、学び合う活動の時間を十分確保し、他者に説明する授業を積極的に行っていく。また、週末やテスト前には問題集やプリントを用い、既習内容の復習を徹底し、学習内容の定着、数学力の向上を図りたい。
理科	全体の正答率は、県平均をやや上回る結果となった。観点別、活用に関する問題でも、ともに県平均をやや上回った。内容・領域別では「地学的領域」についてのみ県正答率をやや下回ったので、重点的指導が必要となることが明らかになった。また、意識調査においては「観察や実験をよく行う」「理科の勉強は好きだ」という設問について、県平均を上回るが、「自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている」という設問は下回る結果となっている。	観察・実験を充実させ、楽しい理科の授業を展開していく。その上で、科学的な思考力や表現力を育成するために、結果から何が言えるのかを各個人の考えを広げたり深めたりする「学び合う活動」の充実を図り、学習内容のまとめに向かわせたい。さらに、学習活動の中に、キーワードを示すなどし適切な条件設定のもとで「書く活動」の充実を図りたい。また、観察・実験の計画・実施・発表・レポート作成などの学習活動を工夫し充実させたい。